

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 有害鳥獣等対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農山村振興課 鳥獣害対策室 鳥獣害対策係 電話番号：058-272-1111(内4172)

E-mail : c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,170 千円 (前年度予算額： 28,400 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	28,400	0	0	0	0	0	0	0
要求額	4,170	0	0	0	0	0	0	4,170
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 鳥獣による農作物被害額は2億円程度と高水準で推移しており、一部の野生鳥獣においては、生息数の増加や生息域の拡大が見られる。有害鳥獣捕獲への要望は年々増加しているが、捕獲従事者の減少や高齢化、捕獲活動に係る経費的負担などの問題を抱えている。

(2) 事業内容

- ◇ 有害鳥獣駆除対策
- 市町村を通じ、有害鳥獣捕獲許可を受けた者に対して、捕獲に必要な経費の一部を助成する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- 有害鳥獣被害に係る県民の負担軽減と県内に生息する鳥獣の個体数管理に係るものであり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	4,170	鳥獣の捕獲に係る助成
合計	4,170	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

- 継続的実施が必要

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

R12年度の県全体におけるサル、ヌートリア、アライグマによる農作物被害額を2割程度減少させることを目指す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
① 農作物被害額 (サル)	3,637 万円	-	-	3,300 万円	2,500 万円	
② 農作物被害額 (ヌートリア)	398 万円	-	-	373 万円	317 万円	
③ 農作物被害額 (アライグマ)	348 万円	-	-	326 万円	278 万円	

○指標を設定することができない場合の理由

（記入欄）

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	◇ 令和4年の有害捕獲頭数（＊本事業で助成したもの）				
	○イノシシ	3,533頭	○ニホンジカ	5,681頭	
○ニホンザル 1,132頭 ○クマ(学習放獣) 0頭					
令和 5 年 度	○ヌートリア	35頭	○アライグマ	181頭	
	指標① 目標：160,000 実績：206,619 達成率： 77%				
令和 6 年 度	◇ 令和5年の有害捕獲頭数（＊本事業で助成したもの）				
	○イノシシ	4,278頭	○ニホンジカ	5,275頭	
○ニホンザル 1,080頭 ○クマ(学習放獣) 0頭					
○ヌートリア	31頭	○アライグマ	222頭		
指標① 目標：140,000 実績：234,019 達成率： 60%					
令和 6 年 度	◇ 令和6年の有害捕獲頭数（＊本事業で助成したもの）				
	○イノシシ	4,675頭	○ニホンジカ	5,981頭	
○ニホンザル 1,149頭 ○クマ(学習放獣) 0頭					
○ヌートリア	38頭	○アライグマ	222頭		
指標① 目標：140,000 実績：204,733 達成率： 68%					

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	野生鳥獣による農林業被害や生活環境被害の増加に伴い、市町村からの有害鳥獣捕獲への支援要望は高く、事業の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	捕獲費用の助成はインセンティブにもなり、積極的な捕獲推進につながっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	今後の鳥獣保護管理施策にフィードバックできるよう、捕獲情報を集約・分析している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

- 野生鳥獣との軋轢が続く限り、捕獲による対策は継続する必要がある。生息数管理や被害地管理を含めた総合的な対策を進める中で、より効果的な捕獲体制の構築が必要となる。

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
 - 有害鳥獣捕獲に必要な経費の一部を助成する本事業を継続し、野生鳥獣との軋轢の軽減を目指す。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	